

高齢者施設／住宅の未来を探る

地域住民とスタッフの理想を実現する木造耐火建築

本年5月に、千葉県松戸市に延べ床面積4,000平方メートルの大規模木造耐火建築による有料老人ホーム「ときわ苑」がオープンする。高齢化社会への対応が急がれる中、国内でもトップクラスの規模となるツーバイフォー工法の高齢者施設には、大きな注目が集まっている。施主の医療法人社団ときわ会 理事長 田村仁氏と理事の田村友美氏、設計担当の株式会社松本設計 会長 松本照夫氏に木造耐火建築の優位性について話を伺った。

くつろぎの空間に不可欠な木造耐火建築

千葉県松戸市にある医療法人社団ときわ会は、常盤中央病院を中核に介護療養を対象とした常盤平記念病院を併設、関連施設として常盤平デイサービス、常盤平訪問看護ステーション、松戸市常盤平地区在宅介護支援センターを備え、医療・介護の両面から地域医療に携わっている。この度オープンする「ときわ苑—ゆらぎの家—」は、大規模木造耐火建築であることと同時に、89床あった介護療養病床を100床の介護付き有料老人ホームに転換することで注

目を集めている。という思いが、「ときわ苑」の理念となっている。

施設を木造にしたのは、規模が大きくても木造で建築することが法的に可能になったことを知ったからだとか。「奈良や京都をみても、木造の神社仏閣が千年以上も残っています。日本の風土にあっているんですね。木の持つ力によって湿度管理もされるし、中に居る人も心地よい。ですから、建てるなら木造がいいと思っていました。大型木造の実績がある松本設計との出会いで、希望が現実になったようだ。

居住性の良さを優先して木造を希望されるケースが増えていますが、どんな建物でもいずれはリノベーションや廃棄が必要になりますが、木造はRC造に比べて増改築や取り壊しのコストが抑えられるし、廃棄物も少なく、将来的な環境性でも優位ですよ」と指摘する。

もちろん、課題もある。約4,000平方メートルという規模の木造耐火建築を設計するにあたり、松本氏が苦労した点は情報の少なさだったという。「この規模に取り付けられる設備や部品は、まだRC適用のものばかりです。それを木造の中に入れていくわけですから、それがネックになったところもありました。解決につながる情報をもっとあれば、可能性は広がります。大規模木造耐火建築は創始期にありますから、こちらも情報を提供しながら、メーカーに働きかけたいですね」と話す。大規模木造建築に適した設備の需要が増えればメーカーの開発が進み、バリエーションも増え、価格も抑えられる。

様々な視点で、配慮が行き届く空間

「ときわ苑」の外観は、リゾートホテル風だ。居室内部は木目を活かしたモダンな造りで、入居者が自分の「住まい」と感じられる空間にした。高齢者にとって何より大切なのは「落ち着ける」こ



ときわ苑 建築概要
介護付き有料老人ホーム 100床 / 工期：2011年8月～2012年3月末 / 設計：株式会社松本設計 / 施工：白石建設株式会社
敷地面積：5,566.81㎡ / 延べ床面積：3,987.60㎡(1階 2,109.37㎡、2階 1,878.23㎡) / 構造：木造 枠組壁工法(ツーバイフォー工法) / 地上2階・耐火構造 / 施設概要：介護付き有料老人ホーム 100床



このアングルから見ると、この建築物の大きさがよくわかる。築から築まで約82mもある

と。そのため、施設のイメージを排除したという。「ここには介護度の高い方も入居される予定です。言葉を発することができない方も、同じように感じているはず。口にできないからこそ、それを汲み取るのは私たちの役目です。寝たきりの方が目を覚ましたとき、天井の木目が目に入ったら、自宅のように感じてもらえるでしょう」と田村氏。

この「住まい」のような環境の実現に力を発揮しているのは、田村氏の夫人で理事の友美氏だ。「私は医療も建築も素人なので、入居する方の目線で意見を言わせていただきました」という友美氏の下には、入居予定者はもちろんスタッフからの相談事が集まっている。それらを総合的に判断しながら、施設作りに役立っているようだ。一例を挙げると、庭の一部にしつらえられた枯山水だ。スタッフの手をなるべく煩わせずに、しかし入居者が外を眺めるときに落ち着きを感じられる空間にするために、日本庭園で見られる玉砂利で趣を出している。

エントランス前のシンボルツリーは、クリスマスにお子さん達と飾り付けをして楽しんだというご夫妻の思い出から、もみの木が植えられている。「ときわ苑」でも入居者と小さい子ども達との共通の楽しみになるだろうし、メン

テナンスにも手がかからない。時にはスタッフ、時には入居者といったフレキシブルな視点で施設運営を見渡すことで、より視線が広がってすべての人に心地よいスペースが構築されていくようだ。

施設の安定経営と木造耐火建築の未来

最後に、田村氏に福祉施設の安定経営に欠かせないものについて伺うと、「なによりも、スタッフのあたたかさです。アットホームを売りにここまで来ていますから。今の時代は医療法人はどこもラックじゃない。組織が継続していけるだけの経営ができればよしとしないと。この仕事は利益を追求すればいいというものでもありませんので。医療からはじかれがち高齢者をケアすることと、安定経営の両立はどの経営者にとっても難題だ。田村氏は、木造が様々なコストを削減し、躯体のもつ柔軟性が足腰への負担を和らげることでスタッフが働きやすくなれば、両立に役買ってくれるものと期待を寄せている。実は、「ときわ苑」建設中に木造で有料老人ホームを建設していることを知った患者から「先生が建てる施設なら、ぜひ入居したい」と予約が入ったそうだ。地域医療に邁進してきた実績は、地域住民が一番評価していることだろう。

木造耐火建築の今後について、松本氏は問い合わせや設計依頼が増えている現状を明らかにした。「昨年の建築途中の『ときわ苑』の見学会には多くの専門家が参加し、希望者が多かったのでオープン前にも開催しました。ここへきて、大規模木造建築が大きく注目されているのを感じます。日本はこの分野では欧米に比べると後発で、情報不足が否めない。先駆的なプロジェクトを担当させていただいている以上、どんどん情報を開示して、社会貢献をしていきたいですね」と話す。

人にやさしく環境への負荷もコストも削減できる木造耐火建築は、今後もさらに飛躍が期待される工法となりそうだ。

COFI
高齢者福祉施設視察セミナーのご案内

COFIでは、有料老人ホーム「ときわ苑」(千葉県松戸市)の視察セミナーを開催いたします。(6月下旬頃予定)

詳しくはCOFIホームページをご覧ください。
www.cofi.or.jp



左から田村友美氏、田村仁氏、松本照夫氏

目を集めている。

転換を決めた理由について、田村仁氏(以下田村氏)は「国の方針で医療と介護を分けたわけですが、実際の現場では連携は不可欠です。当院の高齢者の受け皿として、それを実現できる施設が必要だと感じました」と話す。見る人がいる高齢者と、そうではない場合では状況が異なる。行き場がない高齢者に、安心できるくつろぎの空間を提供した

視点は、低コストから居住性へシフト

木造建築、特にツーバイフォー工法は、インニシャルコスト(建設費)、ランニングコスト(光熱費など)ともに抑えられるメリットがある。CO₂削減による環境への貢献も大きなメリットだ。しかし、松本氏は「以前は、木造を選ぶのは経費削減になるからという意識がありましたが、最近はそのだけではない。

カナダ林産業審議会
SPFグループ
www.cofi.or.jp

Canada Wood Export Program
CWEPEP
カナダ木材製品全般の普及・促進

カナダ林産業審議会(COFI)は、ツーバイフォー工法や木質トラス構造、それらに用いられるSPF材など、木造建築に関する普及・啓蒙活動を行っているカナダの非営利団体です。